

交流サイトで投資人脈づくり 得意分野教え合い効率的に情報収集

インターネットのサイトを通じて会員が交流するSNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）を、投資関連の情報収集に活用する人が増えている。ネットに流れる情報は玉石混交で注意が必要だが、上手に使いえば投資に関する知識や技能の向上につながる可能性がある。

SNSはネット上で同じテーマに興味を持つ会員が「コミュニティ」という集団を形成し情報を交換するのが特徴だ。入会するには他の会員の紹介が必要であるため、従来のネットでの交流手段に比べて匿名性が薄れ、トラブルが起りにくいとされ、5年ほど前から急速に広がってきた。

ミクシィ、グリーなどSNS事業を手掛ける上場企業も登場している。コミュニティのテーマは旅行、健康、スポーツ、ペットなど様々だが、株式投資をはじめとする資産運用も一大ジャンルになっている。

ある大手SNSの会員画面で「株」というキーワードでコミュニティを探したところ、4500超にのぼった。投資初心者向けのコミュニティを見ると、「ネット証券を選ぶならどこがいいですか」といった質問に対し、別の会員が自分の経験談に基づいてアドバイスしていた。中国株の有望銘柄は何か、日経平均株価の予想などコミュニティは多種多様。あちこち訪問していくときりがない。

入会や利用は無料。サイトに掲載する広告で稼ぐのがSNSのビジネスモ

外為」というFX版のSNSも立ち上げる予定だ。

10月17日の夕暮れ時、東京・六本木のバーに16人の個人投資家が集まった。イラクへの投資について情報交換する会で、参加者はSNS「ワールドインベスターズ」の「イラク株投資コミュニティ」の会員だ。サイト上での情報交換では飽きたらず、このコミュニティの管理人である会社員の星龍登さん（37）の呼びかけに応じて対面したのだ。ネットから発展した「オフ会」と呼ばれる会合だ。

ワールドインベスターズはテーマを「海外投資」に限定したSNS。メディア関連企業のザ・スリービー（東京・港）が運営し、海外投資に興味を持つ個人投資家約6000人が会員登録している。異色の分野に興味を持つ比較的小人数のSNSなので、コミュニティでの交流が深まりやすいようだ。

イラク投資の会合では、まず星さんが5カ月かけて現地に証券口座を開いた体験談を披露。イラク株に投資しようとして試行錯誤していた30歳代の女性2人組は「現地に送金できずに困っていたが、何とかかなりそう。直接話が聞けてよかった」と感想を話していた。熱心が議論が夜10時ごろまで続いた。

富裕層限定、入会審査も

運営者が会員を選別するSNSもある。アブラハム・グループ・ホールディングス（東京・港）が運営する「ゆ



海外投資SNSのオフ会でイラク株の投資について説明する星龍登さん

「投資SNS」が登場している

SNS名	運営会社	会員数	特徴
みんなの株式	マッシュューン	約19万人	日本株の情報を中心
ワールドインベスターズ	ザ・スリービー	約6000人	海外の投資情報に特化
ゆかし	アブラハム・グループ・ホールディングス	非公表	富裕層に特化

かし」がそれだ。会員を金融資産1億円以上の富裕層に限定している。入会するには別の会員の紹介のほかに、資産を証明する書面の提出が求められ、電話による入会審査もある。08年夏に会員になった白川ゆかりさん（37）は「わからないことをネット上で質問すれば、親切に教えてもらえる」と話す。不動産投資に興味を持っていたが、他の会員からリーマン・ショック後の不動産市場の惨状について説明を受け、

思いとどまった。

アブラハムの高岡壮一郎社長は三井物産の出身。「日本の個人金融資産の大部分を握る富裕層をネットワーク化できればビジネスとして面白い」と考えて06年11月にゆかしの始動させた。「会員を富裕層に限ったことで、信頼を得ることができた」と話す。東京海上日動火災保険や大手ベンチャーキャピタルのジャフコから出資を受け、株式上場を目指しているという。